GEAHSS 政府要望

人文社会科学の発展のため

アカデミアのジェンダー平等を

人文社会科学は、人間の心や社会のあり方を研究する根源的な学問です。学生では女性が比較的多い分野ですが、研究者や教員、意思決定の場における男女の格差は根強くあります。アカデミアのジェンダー平等を求め、GEAHSS（ギース・人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会）が政府に要望を提出。院内集会を開きました。（重村幸）

院内集会で発言する椎野さん（左から2人目）＝9月2日、参院議員会館

ギースは、人文社会科学系の学会など75団体が加盟しています。要望提出は2020年に続く2回目で、今回の大きな柱は五つです。（別項）

要望①は、25年に決定される「第6次男女共同参画基本計画」に、大学の専任教員における女性比率の目標を明示することです。30年までに、研究者では人文社会科学分野全体で40％、人文科学で45％、社会科学で35％以上とし、教授は25％、准教授は35％以上とする目標設定を求めました。

現在の第5次計画では、研究者の新規採用における女性比率の目標が初めて明記されました。これはギースも要望していたもので、目標達成に向けて一定の成果がみられます。しかし、無期雇用の専任教員や、教授などの役職者での目標は定められていません。

ギースは23年、研究者など約1700人を対象に実態調査をしました。

大学など自分の所属先について、常勤の研究職・教員や役職者に「男性が多い」と答えた人は、ともに7割近くに上ります（グラフ）。女性は不安定雇用の非常勤が多く、研究費の獲得や研究への専念も難しいのが実態だといいます。

女性に不利益多く

要望③は、結婚や育児、介護などのライフイベントと仕事・研究を両立する上で、女性がより多くの不利益を受けている現状の改善です。

ギースの調査では、姓の変更によって多くの女性が、研究実績が引き継がれない（83％）、海外での在外研究や国際会議に参加する際の各種手続きに面倒が生じる（74％）などと、研究活動に影響を受けています。

選択的夫婦別姓を望む人は、女性で9割近く、男性も8割を超えます。

家事や育児、介護のために研究時間がとれなかった人は、男性が「非常に」8％と「やや」22％で3割、女性は「非常に」40％と「やや」33％で7割を超えます。

個人の不利益をなくすために、選択的夫婦別姓や同性婚の法制化が要望されました。

さらに、大学での保育施設の整備や休業取得制度の充実をすすめ、ライフイベントへの支援やジェンダー平等に向けた各大学の努力を促すよう求めています。

要望⑤は、ハラスメント（権力関係を利用した嫌がらせ）やアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）の是正です。

「セクシュアル（性的）ハラスメントやアカデミック（大学など教育の場での）ハラスメントの被害にあった」と答えた女性は6割に上り、重大な問題です。

要望では、「被害者と加害者が幾重にも権力関係にあることが多い」と指摘し、全大学・研究機関を対象としたハラスメント調査の実施・公表などを求めています。

二重に軽視される

集会では、「非常勤講師で食いつなぎ、待遇改善を訴える余裕もない」「産休すら取りづらい」など、ギースに寄せられた切実な声も紹介。保育所が休む祝日（休日）に大学の授業が設定されるなど、子育て中の当事者の視点が反映されない状況も報告されました。

また、理工系の自然科学が偏重される中、人文社会科学分野の女性は二重に軽視されている、との指摘も上がりました。

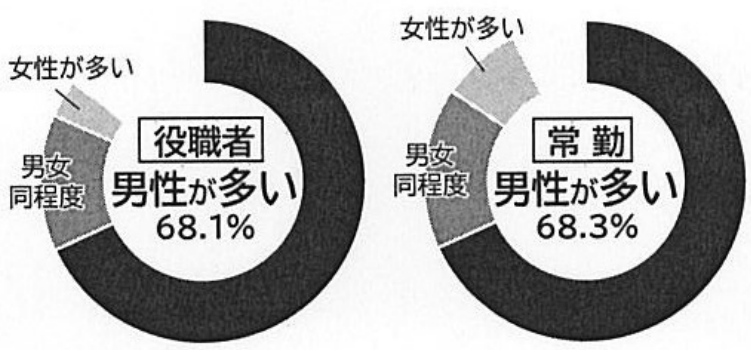
ギース委員長で東京外国語大学准教授の椎野若菜さんは、「AI（人工知能）が急速に入り込んできた現代、人間社会における人間の心や倫理、社会のあらゆる問題を解決していくためには、人文社会科学の発展がより必要となる」と指摘。「女性が研究者になれない、続けられない状況は、国として大きな損失。女性研究者のおかれた状況を改善し、次世代の養成に積極的に取り組んでほしい」と強調しました。

人文社会科学分野における
ジェンダー平等に向けての要望（骨子）

①第6次男女共同参画基本計画に大学の人文社会科学系の専任教員（講師以上）に占める女性の成果目標値を明示
②アーリーキャリア（初期キャリア・若手）研究者の研究環境と雇用の安定のため、研究支援制度を整備
③ライフイベントに配慮した仕事・研究との両立支援を拡充
④ジェンダー平等に資する研究・学問分野を支援
⑤学術領域におけるハラスメントおよびアンコンシャス・バイアスの是正に向けた施策

※要望書全文や実態調査報告書はギースのウェブサイトで公開中
（geahssoffice.wixsite.com/geahss）

所属先の研究職・教員のジェンダー比



他の回答項目は「わからない」「該当しない」「無回答」
（ギース「第2回人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査報告書」から作成）

人文社会科学　人文科学は、文学や史学、哲学など。社会科学は、法学、政治学、経済学、社会学、教育学、心理学など。

前田和子の 今晩のおかず

■カボチャと豚肉の炒め煮

夏ばての胃に優しい、ビタミンたっぷりの中国の家庭料理です。茎ニンニクの代わりにインゲンでも。

◆材料（2人分）
カボチャ150グラム／豚薄切り肉60グラム／茎ニンニク30グラム／タカノツメ1本＝計180円

◆作り方　①カボチャは4センチ長さ4ミリ厚さの薄切り。

②豚肉は2センチぐらいに切り、しょうゆ・酒各小さじ½、コショウ少々、かたくり粉・油各小さじ½で下味をつける。

③タカノツメは種を取って輪切り。

④茎ニンニクは根元のかたい所を取り、4センチに切る。

⑤油大さじ1と②を鍋に入れ、色が変わるまで炒め、①を加えてサッと炒め、水100ミリリットルを加える。

⑥　⑤にしょうゆ・酒各小さじ2、砂糖小さじ⅔で調味し、③④を加えて汁気がなくなるまで焦がさないように、中火以下で炒める。

（1人分224キロカロリー、塩分1.2グラム）